

# 【第1回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

平成27年6月24日

【日時】 平成27年6月2日（火）15:00～17:00

【場所】 石狩市役所4階 401・402会議室

【出席者】 15名（15名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	酒井 志津子	○	委員	武部 正芳	○
副会長	竹口 尊	○	委員	坂下 和広	○	委員	徳光 康宏	○
委員	木村 秀裕	○	委員	佐藤 勝彦	○	委員	林 美香子	○
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	○	委員	原 俊彦	○
委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	○	委員	松崎 英樹	○

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域政策部：田辺戦略策定支援担当部長、高田地域政策課主査

□事務局 石狩市企画経済部：加藤企画経済部長、佐々木企画課プロジェクト担当課長、池内企画担当主査、青木企画担当主任

【傍聴者】 0名

- 【次第】
1. 開会
  2. 市長挨拶
  3. 会長・副会長の選出
  4. 総合戦略策定作業について
    - ・当面のスケジュール確認
    - ・総合戦略の全体像について
    - ・人口ビジョンについて
  5. 閉会

## ==== 会議内容の記録 =====

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

### 1. 開会

### 2. 市長挨拶

### 3. 会長・副会長の選出

会長には石狩商工会議所青年部の角川委員、副会長には石狩市連合町内会連絡協議会の竹口委員が選出された。

<事務局からの確認事項（審議会の進め方について）>

●議事録については要点筆記とし、会長が確認した上で委員に配布する。

●傍聴者の意見については、文書での提出を認める。

※事務局からの提案について、委員異議なしとのことから承認された。

### 4. 総合戦略策定作業について

●「当面のスケジュール」について事務局より説明【資料1参照】

● 国の「長期ビジョン」「総合戦略」について事務局より説明【参考資料3参照】

● 本市の総合戦略策定作業について【資料2-1、資料2-2参照】

## 質疑・意見

○資料 2-1 における人口ビジョンのところで、「年間 200 万人の交流人口創出」とあるが、現状はどのくらいか。

●観光の入込客数として約 180 万人、2010 年の国勢調査の通勤通学の人口で 16,600 人、これを合わせて 182 万人。切りの良いところで 200 万人を目標としている。

○K P I の指標は、初年度の目標値か、それとも年間の目標値か。例えば「地場特産品販売額 63,147 千円」でいうと、5 年間の間に最終的にここまでというものなのか。「UIJ ターン就農 2 人」などは、目標値として低いのではないか。

●資料 2-1 でご説明すると、総合戦略の計画期間が 2015 年から 2019 年の 5 ヶ年間となっており、基本的には 2019 年（平成 31 年）を目途にした成果指標を設定するという事になっている。

例外として、先行型交付金事業については、交付金の申請段階の際に、暫定的に今年度末までの数値を設定しており、ここに記載している「地場特産品販売額 63,147 千円」については、その右側の「石狩ブランド情報発信事業（先行）」の今年度末までの目標値である。先行型で実施した事業については、必ず KPI を載せなくては行けないので、まずは掲載をさせていただいていると言う事でご理解をいただければと思う。今後作っていく具体的な政策の K P I については、5 年後がひとつのターゲットとなっている。

○今後は、具体的な施策の議論が重要になってくると思うが、第 5 期石狩市総合計画の策定に関して、これまでに話し合いをしてきた意見を、それぞれの戦略目標ごとにリスト化して提供してもらえると、そのアイデアの中から KPI に使えるものを選んでいけるので、議論がスムーズになると思う。

●了解した。郵送等で提供するので、次回の会議の際に、議論の素材として参考にさせていただきたい。

○資料 2-1 に、石狩 PRIDE が市民像としてあるが、これに関しては具体的な施策はなくても良いのか。

●レイアウトの都合上、ここに位置してしまっているが、上にある都市像の絆、環境、創造という部分の 3 つの都市像を連携させながら進めていくことによって、この石狩 PRIDE、まちへの誇りや愛着心が醸成されていくという部分であり、上の 3 つの都市像すべてにかかった市民像である

## 意見交換

### <ライジングサンロックフェスティバルの活用について>

○毎年開催されるライジングサンに来る人数はずば抜けた数字であり、石狩の人口が 2 日間で倍になる。しかし若者のイベントというイメージがあり、シニア世代が参加するとなると大変だという思いがある。若者とシニア世代が一体となって参加できる事業や、シニア世代に向けたライジングサンのあり方を考えると、さらなる活性化に繋がり、もっとたくさんの人に来てもらえるのではないか。

○はるきちオーガニックファームでは、2007 年からライジングサンで出た生ゴミを堆肥化し、それを使ってじゃがいもを作り、翌年のライジングサンで販売している。他にも、地元の飲食店が参加できる PR ブースを設けてもらい、石狩鍋などの地元の物を食べられるようなスペースがある。

○アーティストに地元の小学校でワークショップをしてもらったり、PR用のドキュメンタリー映画を住民参加で作ったりするなど、地域住民との連携に力をいれていくと、イベントが街のものになり、石狩PRIDEにも繋がるのではないかと考える。

○交流人口が6万人になる機会はめったにない。宿泊施設の問題や、地元住民との交流など、ライジングサンを活かす取組みを議論するチームがあると、次の展開につながるのではないかと考える。観光協会や商工団体、行政が、一体となって、色々な提案をしていくべきだと考える。

#### <人口ビジョンの設定とその達成について>

○人口ビジョンの設定については、25年で5,000人増ということは、年間にすると約200人なので、十分可能ではないかと思う。ただ、5,000人がここで生活をするということになるので、それに伴い、住居や学校などの問題も議論していかないと、リアリティがない目標設定になる。これまで、どちらかというと、今住んでいる住民が幸せになるような施策を考えてきたと思うが、積極的に新しい住民を増やそうという意欲を持てば実現は可能ではないか。

○現在樽川地区が、札幌と比べて格安な値段で土地を売り出しており、札幌市の各地から移り住んできている。札幌市の中心部へも1時間以内で着くので、通勤もできる。土地の魅力や環境などを選んで移ってくる若い世代を考えると、子育て施策も重要だと思う。しかし一方で、空き家が増えている地区もある。理想を言えば、空き家が増えている地区を再開発し、そこに若い世代の人たちが入ってくれば一番良いと考える。

○通勤圏としてベッドタウン的に住んでもらう方が人口増にはつながりやすいが、住民だという意識をなかなか持ってもらえないという問題がある。そこは受け入れ側の熱意を伝え、住民意識を高めるような政策を実施していけば良いと思う。例えば留寿都村には、新しくその街に来る人たちの、引越しや学校のことをアドバイスする市民の組織があると聞いている。新しく来た人が早くなじめるように、特にお子さん、学校のことや保育園のことなど、相談に乗るお手伝いを市民が行うというのはとてもよいこと。就業の機会を作り、働くと同時に住んでもらう方がもっと良いのだが、なかなかそれは難しい。そういう市民の動きがあるだけでも素晴らしい。

○石狩湾新港地域は、新しい産業の誘致を基盤として行っていけば、まだまだ裾野が広がるのではないかと考える。現在就業されている従業員の方には、小さいお子さんがいる方も多いため、子育て支援の部分も検討しても良いと思う。

○石狩には、道庁や大学に勤めていた方が住宅を購入し住んでいる。その方々が引退後、いかに街づくりに参加するかがとても重要である。

○少し上の世代が楽しめるようなカフェを街で作ったら良いのではないかと考える。特に男性は、本物の音楽や珈琲にこだわる人が多いので、そのような演出に配慮は必要だと思うが、石狩には徳光珈琲のようなお店があり、指導する方もいるので、うまく実施すれば、交流人口も増えるし、移住に繋がるきっかけになるのではないかと考える。

○就業の機会で言うと、特に厚田区や浜益区は産業が弱り気味で、就業が徐々に減ってきていると思う。それを見直すためには、就業の場を作るのが一番良いと思う。そういう意味では、2年後に厚田に道の駅ができるので、有効に活用できれば産業も活性化し、徐々に人口も増えていくのではないかな。

○厚田区は過疎化・高齢化が進んでおり、一次産業の後継者がなかなか育たない。特に農業は、後継者として地域おこし協力隊をお願いしたいという話も出ている。厚田区は米農家が多いので、一次産業を道の駅と結びつけ、おいしいお米と新鮮な魚をキーワードとし、札幌からたくさんの人を呼び込むためにどうしたら良いか検討している。

また、教育の問題では、過疎化しているので小中学校の統合を議論しており、幼小中一貫教育にすることによって、学力向上に繋がり、これが成功すると、子育て世代にも来てもらえるのではないかな。さらに、使用しなくなった校舎を宿泊施設に使えないかとも考えている。

#### <現在進行中の取組み>

○観光協会での新しい取組みとして、新しい特産品の開発というよりは、復活ということで、「寒塩引」という、江戸幕府への献上品として奉られた鮭を完成させた。地元で伝わる伝統的な作り方で、今年は100本限定で作った。来年は数を増やしたい。味の評判が良く、良いものができたので、石狩ブランドの情報発信ということで、今回の先行型交付金では、動画コンテンツ、ユーチューブを活用しPRする。今度は石狩鍋を、どうやって作るか、レシピを映像でわかりやすく説明しこれまでと別の角度から発信していくことを考えている。

○徳光珈琲では、地元のを発信していく取組みをしている。意外と地元の人が知らないものがたくさんあるので、地元の人に喜んでもらえる仕組みが何かできないか考えて、コーヒーと一緒にデリバリーする「いしかりデリバリー」という取組みを始めた。結構大変だが、リピーターが少しずつ増えつつあるので、続けていくことに意味があると思っている。札幌にもお店が2軒あるので、そこに置き置きという形で、札幌の人にも楽しんでもらい、広がりを見せられないかと考えている。地産地消とよく言うが、コーヒーはどうしても石狩で生産されていないので、「商品として出来上がった」という捉え方で、石狩で作られたものが、コーヒーも含めて色々な形で提案できるのではないかと考えている。

○石狩は子育てや健康づくりに力を入れており、また、手話条例を全国に先駆けて作り、先端を行っている街である。石狩は、観光と健康を併せた取組みができると思う。この具体的なことにみんなで作るこんな街石狩というところを表現すれば良いのではないかな。雪や風、寒さがあり、今年完成した寒塩引も寒さのイメージがとても良いので、そこを石狩の宝にしていけば良いと思う。

## 5. 閉会

平成27年6月24日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治